

看護



# 青い森

vol.101

発行日 2018.10.5

平成30年度 会員数

会 員	8,529人
保 健 師	263人
助 産 師	309人
看 護 師	7,565人
准看護師	392人
(H30.9.14現在)	

■発行／公益社団法人 青森県看護協会 ■編集／広報出版委員会  
 ■住所／青森市中央三丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 TEL (017)723-2857 FAX (017)735-3836  
 URL <http://egao-park.net> E-mail [ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp](mailto:ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp)

## CONTENTS

02 CAREER UP

03 広報出版委員 取材レポート  
 ●ナースセンター「施設見学バスツアー」  
 ●青森県総合防災訓練

04 保健師・助産師職能委員会  
 看護師職能委員会 I・II

06 支部だより  
 ▼ ●東 青 支 部 ●中弘南黒支部  
 ●三 八 支 部 ●西北五支部  
 ●下 北 支 部 ●上十三支部

12 見舞金の受付・義援金のお礼  
 2019年度 会員継続のお知らせ

## CAREER UP

Part20



## 「認知症看護認定看護師」

青森県立つくしが丘病院 藤田 和香子

看護師として就職し、結婚、出産を経て、仕事や家事、育児に追われているうちに、気づくと20年の月日が過ぎていました。

子育ても一段落し、改めて看護師としての自分を振り返った時、誇れる知識や技術、能力を何一つ持ち得ていないことに気づきました。このままでいいのかという焦りと、いまさら何ができるのかという諦め。上司から認知症看護認定看護師をすすめられたのは、そんな思いが交錯し悩んでいた時期でした。迷いや不安はありましたが、一步踏み出すなら今しかないと決断し、認知症看護認定看護師を目指しました。

資格取得から2年が過ぎ、現在は、医療従事者を対象とした研修会や看護学校での講義、一般市民を対象とした講座や学習会で講師を務める等、認知症の知識の普及が主な活動になっています。

院内では昨年からは認知症の人、ご家族、施設職員を対象とした認知症相談の窓口を始めました。認知症かもしれないと不安を感じている方、介護に自信が持てないという施設職員の方、後悔しない介護がしたいと希望するご家族の方。

相談を通して感じたことは、何かを解決してほしいというより、話を聴いてほしい、理解してほしいという思いから来院される方が多いということでした。これからも、相談という形式にこだわらず、来院される方が話すことで安心できたり、自信を持てたり、また頑張ろうと

思える場にしたいと考えています。

認知症看護は患者さん一人一人の生き方や思いに着目し、その人に合った看護を見だし介入していく看護です。そのためには、どれだけ、その人に寄り添えるか、その人の価値観で考えられるかといったことが重要です。最新の機器や技術は必要ありませんが、だからといって、誰にでも簡単にできるものではなく、想像力や柔軟性、アセスメント能力が問われます。

私にとって、現場で多くの認知症の方と接することは対応力を磨き、駆使するだけでなく、なにより患者さんの変化を間近で感じられることでもあり、日々の認知症ケアこそ大切だと考えています。理想どおりに実践できないことは多々ありますが、現実をありのまま受け入れることで理想が追求でき、何ができるのか、何をすべきかといった課題に日々挑戦しています。

認知症看護に興味をもち資格取得を目指す方へ。学ぶことに遅すぎるといことはありません。勇気をもって一步踏み出してください。一緒に青森県の認知症看護を盛り立てていきましょう。

今現在、県内には11名の認知症看護認定看護師がいて「あおもり認知症看護の会」という会を設立し活動しています。多くの仲間ができることを期待しています。



藤田和香子氏



県看護協会で行われた認知症対応力向上研修の講師として



## 広報出版委員 取材レポート

取材者：バスツアー担当：工藤美由紀・三浦 麻美  
防災訓練担当：工藤美由紀・奈良岡敦子



### ナースセンター 「施設見学バスツアー」



平成30年7月10日、「施設見学バスツアー」が開催されました。このツアーを機に資格を持った未就職者が再就職へつながるようにナースセンターが企画したものです。参加者は就業に意欲を持つ30代から60代までの8名で、悦びの里・青い海公園クリニック・すずかけの里・青森新都市病院・青い森病院の5ヶ所を見学しました。

各施設では、担当者から施設の事業について説明を聞き、普段入れない内部まで案内していただきました。「ぜひ、うちにいらして」と熱いラブコールの中、参加者は真剣な表情で見学し、メモを取りつつ熱心に質問されるなど、関心の高さがうかがえました。

最初は皆さん緊張した面持ちでしたが、次第に打ち解け話に花が咲き、和やかな雰囲気で見学ツアーを楽しんでいました。

参加者からは「いろいろな施設が見学でき、選択の幅が広がった」「次年度も継続してほしい」との声が多数聞かれ、大変好評でした。

センター長より「この見学ツアーをきっかけに参加者の新たな分野での活躍の機会になることを願っています」という挨拶がありました。

広報出版委員会としては今回取材させて頂いたことを機に、このツアーの動向について関心を寄せていきたいと思ひます。



ナースセンターの皆さんと一緒に  
に出発！



### 青森県総合防災訓練



平成30年9月4日平川市で行われた青森県総合防災訓練での災害支援ナースの活動取材してきました。今回参加した4名は青森県からの要請でトリアージ緑の傷病者対応に参加し、救急隊員と共に問診や応急処置を行い、医療機関への橋渡しを行っていました。

災害支援ナースは、DMATとは異なり災害発生72時間後から、派遣の要請を受けての活動になります。災害現場ではなく避難所等に出向き、被災者の身体や心の傷に向き合い寄り添いサポートすること・感染症の発生を防ぎ被災地の公衆衛生支援を通して復興支援を行うこと・被災した看護職の心身の負担を軽減し支える重要な役割を担っています。

東日本大震災をきっかけに関心が高まり、災害支援ナース登録者数は42名から次年度88名へ増加しまし

た。7年経過した現在は115名の災害支援ナースが登録していますが、登録者数が頭打ちなのが悩みと伺いました。被災地では小児から老人、更に周産期や障害を持った方まであらゆる分野の支援が必要です。「何か力になりたい」と思ったら「自分にできること」はきっとこの場所にあります！ぜひ被災地に元気と勇気を届ける活動に参加してみませんか。

災害支援ナースへの問い合わせ・登録だけでなく、災害看護研修への参加もお待ちしております。



訓練に参加した  
災害支援ナース



## LOOK! マイレポート

### 保健師職能委員会コーナー

#### ★保健師職能委員会企画★

#### 「保健指導や看護に活かす動機づけ面接法」研修会を開催して

保健師職能委員 石藤 フキ野 (八戸市庁)

平成30年6月2日(土)に、防衛医科大学校医学教育部講師の瀬在 泉先生をお迎えし「保健指導や看護に活かす動機づけ面接法」の研修会を開催しました。

動機づけ面接法とは、相談者が語ってくれる会話を通して、面接者が「正しい反射」を抑え、行動変容に伴う両面性「変わりたい、一方で変わりたくない」という相談者の気持ちや状況を丁寧に引き出し、生活習慣改善など目標とする行動や変化に関する発言を強化することで、相談者自らが気づき、行動に繋げるプロセスを支える方法です。

研修会では、動機づけ面接法の4つのスキルである「開かれた質問(取捨選択形式ではない質問)」「是認(相手の強みや努力を伝える)」「聞き返し(来談者の言動をそのまま、または面接者が理解した内容で返す)」「要約(来談者が発言してきた内容のまとめを返す)」について講義



講師の瀬在泉氏

と演習をとおして学びました。

日常行っている相談業務をふり返り、「あっ、このように対応すれば良かったんだ」と気づくことが多くあり、「次は、このように伝えてみよう」と考えながら、今後の面接相談に活かすヒントを得ることができた研修会でした。



演習の様子

### 助産師職能委員会コーナー

#### ★助産師職能委員会企画★

#### クロックミップ研修新生児蘇生法 Sコースを開催して

助産師職能委員 佐々木 久美子 (県立中央病院)

平成30年7月22日(日)助産師職能委員会企画研修である「新生児蘇生法Sコース」が開催されました。今回初めて実施された「Sコース」の研修は、新生児蘇生法A、Bコースの資格更新のための必須研修となっています。「Sコース」では、新生児の蘇生技術の質の維持を目的とした「講義」「手技実習」「シナリオ実習」のスキルアップのための研修を3時間受講することで、資格の更新ができます。

研修では県内の医師2名と助産師2名がインストラクターとなり、13名の受講者が3グループに分かれての研修となりました。シナリオ実習では、新生児蘇生法アルゴリズムに沿って、新生児モデルへの人工呼吸や胸骨圧迫を行っていきます。少人数での実習のため、その都度インストラクターからのアドバイスを受けることができ、正しい手技を確認することができていました。



講義の様子

新生児蘇生法はアドバンス助産師の申請に必要な資格であり、新生児に関わる看護職にもぜひとも取得してもらいたい資格です。助産師職能委員会では、これからも皆様のお役に立てる研修を企画していきたいと思っています。



手技実習中

## 看護師職能委員会コーナー

### 療養病棟看護に関する学習会を終えて

青森県看護協会の重点事業として地域包括ケアシステム看護提供体制の構築が掲げられています。その一環として病院から繋ぐ看護、後方連携の機能を持つ療養病棟の看護を考え、県内の看護職が療養病棟を理解し、尊厳あるケア提供ができるようになることを目的に、病床機能転換専門研修が段階的に行われてきました。最終段階となった今回の学習会(平成30年9月1日開催)は、これまでの研修会に参加された療養病棟6施設からの発表となりました。

療養病棟の抱える課題から圏域ごとに研修会が企画されており、「身体拘束の最小化の取り組み」「エンドオブライフケア」「生活を支える視点からの退院支援」「看護職と介護職、知っているようで知らないお互いのこと」それぞれの研修会で得た知識を現場に応用し、自施設の課題を抽出して、解決、改善に向けた取り組みを行っている、とても感心させられました。68名の参加がありましたが熱心に意見交換が交わされ、どの施設でも同じような課題を抱えていて、療養病棟の看護の実情を知る良い機会となりました。

### 看護師職能委員会 I

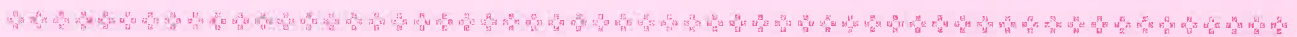
看護師職能 I 委員 乗田 生子 (黒石病院)

最後に生活を支える看護師の会副代表、医療法人社団悠翔会 在宅医療部本部看護部長である渡辺美恵子氏より講評をいただき、今は生きることを支える医療に変わり、患者の生活過程を見直す丁寧な看護が大切であることを教えていただきました。



講師の渡辺美恵子氏

研修後のアンケート(回収率99%、参加施設 一般病棟31% 療養病棟49%)では、今回の学習会について「共感でき、必要と思った」と99%が回答しました。また、意見として、「入院中の患者さんをケアできても在宅ケアに向けての視点がないので在宅ケアに結びつくケアが提供できていない。一患者としてみるだけでなく、在宅で生活する一人の人間として関わっていきけるのかしらと考える。どんどんこのような研修会を広めて欲しいと思う」とあり、関心の高さがうかがえました。



### ★看護師職能委員会II企画研修★

### 「ICF(国際機能分類)を活用して生活支援を考える」研修会を開催して

看護師職能IIでは「ICF(国際機能分類)を活用して生活支援を考える」をテーマに青森県立保健大学健康科学部看護学科 教授 細川満子氏をお招きし講義していただきました。「生きる全体像」を把握して「よりよく生活するためにはどうするか」をねらいに掲げ、県内の病院、診療所、介護・福祉施設、訪問看護ステーションから、29名の参加があり、学びを深めました。ICFの活用は、リハビリ、ケアマネ、介護分野にも広がり活用されています。しかし看護分野ではまだ浸透していない現状もあると参加者からの声がありました。



質問に答える細川先生

### 看護師職能委員会 II

看護師職能II委員 原子 智子  
(健生訪問看護ステーションたまち)



研修会の様子

できないことや問題(マイナス面)に焦点をあてる思考から、できること(プラス面)に焦点をあてる思考の転換。健康状態、心身機能・構造にのみとらわれず、活動、参加、環境因子、個人因子に目を向けた支援。問題解決計画から、目標思考型の支援計画へつなげるICFを事例を踏まえ学ぶことが出来ました。

超高齢社会を迎える今、病や生活機能の障害を抱えて在宅で生きる人々に対して、支える医療の提供、生活の質の向上を目指し、包括的・総合的にとらえていく必要性を学び、深める研修になりました。

## 東青支部だより

### 支部長あいさつ

東青支部は、青森市・平内町・外ヶ浜町・今別町・蓬田村の5市町村で構成されております。今年度は支部長を含め8名の役員が交代し、役員11名と25施設の連絡委員で活動いたします。

活動内容は、教育・研修として春と秋の研修会、また広報活動として看護の日PRイベント、さらに職業講話などの事業に取り組み、広く関係機関と連携しながら保健・医療・福祉のサービスを提供してまいります。

会員の皆さまのご意見を聴き、反映されるように役員・連絡委員が連携し、支部活動を行っていきたいと思います。ご指導よろしく願いいたします。  
(記：支部長 山田明子)

### 平成30年度 春の研修会

平成30年5月26日(土)、支部集いに引き続き、参加者77名による勉強会が開催されました。看護職は、看護を提供する能力を維持しより質の高い看護を行うために、自分自身を見つめ直し伝えることを明確にする必要があります。



講演する村井麻矢氏

そこで多死社会を見据えて多様な価値観への対応を学び、人々のより良い生活の実現に貢献することを目的に、専売院の上級終活カウンセラー村井麻矢氏を講師としてお招きし、終活をテーマに講演をしていただきました。

終活とは「人生の終焉を考えることを通じて、自分を見つめ、今をよりよく自分らしく生きる活動のこと」と



講演に聴き入る参加者

いうことでしたが、それを通じてその人らしさを支える看護職の役割を再認識できました。また、だれでも今からでも今後の自分や、家族のことを少し立ち止まって考えてみるのも必要なことなのだと思います。参加された方々からは「終活について考えるいい機会となった」「エンディングノートの在り方・書き方を知ることができた」「準備をすることで自分らしく人生を送ることができる」などの意見をいただきました。

(記：第二副支部長 齋藤純子)

### 5月12日は看護の日

「看護の心をみんなの心に」をテーマに「1日まちの保健室」を行いました。

東青支部役員11名で、ガーラタウン・青森ウエストモールで健康相談、血圧測定、血管年齢測定、訪問看護相談を行いました。当日は家族連れなど約60名の市民の方が、自分の健康についての相談や測定を行い、健康意識を高めました。

短命県返上に向けて自分の体を見つめなおす機会になっていただければよいと思います。

(記：庶務 和田美穂子)



### PR活動

東青支部では会員拡大に向けての取り組みとして、毎年看護学校を訪問しPR活動を行っています。今年も平成30年2月23日(金)青森市立高等看護学院へ、平成30年2月28日(水)には青森市医師会立青森准看護学院へ訪問させていただきました。

青森県看護協会のガイドブックに沿って、協会員になった時のメリットや協会の活動について説明させていただきました。

PR後のアンケートでは、「看護協会が何をしているのかわからなかった」という方がいて、まだまだPRしていく必要があると感じました。

また、学生さんの興味を引いた内容として、各種研修、ナースセンター、賠償責任保険制度、災害支援活動などがあげられていました。加えて「活動内容が理解できた」「入会したい」「自分も高校生一日看護体験に参加した」などの感想も聞かれました。

最後に両校の先生方、学生さんには卒業前の忙しい時期に貴重な時間を作っていただきありがとうございました。

今年度、看護師・准看護師になられた方々の入会をお待ちしております。  
(記：幹事 菅美希)

## 中弘南黒支部だより

### 平成30年度 中弘南黒支部集会

平成30年5月26日(土)弘前市民交流館「ヒロ口」にて、支部会員1,779名のうち、集会出席者45名(委任状1,461名)で開催されました。

蒔苗支部長の挨拶から始まり、事業報告・計画等や、規定一部改正(役員定数)について報告があり、賛成多数で承認されました。

また、今年度より新任支部長の寺島由美(健生病院総看護長)より挨拶があり、閉会となりました。



平成30年度新役員です。

### 看護学習会

**日時** 平成30年5月26日(土)14:00~16:00

**会場** 弘前市民交流館「ヒロ口」

テーマ「在宅を支える多職種連携  
～安心して自分らしく暮らし続けるために～」

講師 相馬 渉氏 (ファルマ弘前薬局 薬局長)  
須郷 敏子氏 (訪問看護事業所 共 所長)  
福原 郁子氏 (弘前市地域包括支援センター センター長)

看護職83名の参加(うち非会員15名)で開催されました。薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャーの3名の講師の方々の活動を事例を通して講演していただき、シンポジウム形式で意見交流をしました。

参加者からは、予想以上の活発な質問や感想が出されていました。

各分野、職種それぞれで違う視点があり、相馬薬局長



学習会の様子

からの事例では、高齢の方々の特徴に合わせた具体的な配薬の取り組み等があり、「在宅でそこまで介入していることを初めて知った」という意見もあり、関心が高かった内容だったと思いました。

今後も、会員のみなさんが関心を持ち、「ぜひ、参加したい!」と思える学習会のテーマ企画をしていきたいと思えます。(記:記録係 荒川志穂)

### 看護の日 平成30年5月12日(土)さくら野弘前店

平成30年5月12日(土)さくら野弘前店で「看護の日」PRイベントを開催しました。ご当地キャラのたか丸くんとともに呼び込みを行い、イベント会場にお連れする作戦です。さすがのたか丸くん、とても人気があってまるで写真撮影会の様相です。来場者は70名以上で、骨密度・血圧・血管年齢と興味のあるブースへ、そして健康相談もかねてスタッフと笑顔で会話されていました。「毎年やっているの?」「去年も測ってもらった」等の声も聞かれ、同じ時期に同じ場所で開催することも、地域の人に知ってもらうには意味があるものと感じました。まずは、地域の人に健康増進に関心を持ってもらい短命県返上に貢献していきたいと思えます。



### 会員拡大しよう!!

中弘南黒支部では、看護協会会員拡大に向け、看護協会PRのためのDVDを作成しました。

看護協会に入会した時の利点や支部の活動が盛り込まれています。

先日、素敵な表紙も完成し、今後各施設・看護学校へお配りする予定です。

3分程度のDVDですので、看護学校では、卒業式や何かしらのイベントの前に、各施設では、新入職員のオリエンテーションや学習会等の開催前など、いつでもどこでも大いに活用していただきたいと思っています。

スキルアップのために、そして働く職場のレベルアップのために、ぜひ、看護協会へ入会を勧めていってほしいと思えます。

(記:第一副支部長 工藤智子)



## 三八支部だより

### 平成30年度 春の特別講演会、三八支部集会

よく晴れた5月26日(土)、八戸市総合福祉会館において春の特別講演会と三八支部集会を開催しました。

集会に先立って行われた講演会では、医療法人清照会 湊病院 精神保健福祉士の曲澤憲薫氏をお招きし、「認知症高齢者と家族が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために」をテーマにご講演をいただきました。来場者数は113名で、他支部からもお越しいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

講演は、社会保障・税一体改革の背景や経緯、地域包



平成30年度役員の皆様です。

括ケアシステム、介護保険制度の仕組み、家族会の紹介など盛りだくさんの内容でしたが、テンポの良いユーモアを交えた話に引き込まれ、また所々で脳の活性化に役立つという脳トレ体操を挟みながら、参加者の笑い声が絶えないあつという間の90分間でした。途中で紹介された「銀のさら」のCM動画は認知症高齢者と家族の日常の一コマが題材となっており、認知症高齢者の世界観に触れ、考える時間ともなりました。

参加者アンケートでは、約90%の方が「講演内容はわかりやすかった」と回答、「認知症ケアパスがあることを初めて知った」「来年以降も同様のテーマでシリーズ化すると良いと思う」などの感想が寄せられました。

続いて行われた三八支部集会では、平成29年度事業報告、経費支出、平成30年度事業計画、経費割当の報告と議決事項の審議を行い、全ての議案について可決・承認されました。新任役員5名を迎えた新体制で、今年度も会員の皆さまの声を反映させながら活動してまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(記：支部長 加賀靖子)

### 看護の日イベント

平成30年5月12日(土)ラピアショッピングセンターで看護の日イベントを開催しました。来場者は78人で、お客様連れのご家族や学生、高齢者の方々など幅広い年代の方がみえました。

血圧測定・体脂肪測定・健康相談コーナー、訪問看護師の協力をいただいた在宅療養の相談コーナーを設け、看護の日PRグッズを配布しながら来場者のみなさまと触れ合うことができました。「毎年ここに血圧を測ってもらいにきてるよ」「看護師さんとお話できるから良いですね」、学生の中には「将来看護師さんになると思っています」と話してくれた方もいました。

普段、所属施設外で健康相談に応じる機会が少ない私たちですが、このイベントが地域のみなさまの健康管理への認識を高める機会であるとともに、看護師と看護協会のPRを行う大切なイベントであることを実感し、充実した1日となりました。

今後も積極的に地域のみなさまと関わる活動を行っていきたく思います。

(記：庶務係 小田桐綾子)



血圧測定中で一す



三八支部 役員・協力員です



## 西北五支部だより

支部活動の可視化に努め、参加しやすい・楽しい支部活動を目指します。地域における看護職の質向上を目指します。会員みなさん、支部活動(集会・研修会・イベント等)に参加しご意見・ご感想をお寄せください。フィードバックに努めます。(記：支部長 角田つね)



### 平成30年度 第1回研修会

●参加者数：74名 ●支部役員・協力員数：12名

**日時** 平成30年5月26日(土)13:45～15:15

**会場** つがる市生涯学習センター「松の館」

テーマ「成年後見人制度を知ろう  
～現状と課題～」

講師 三上富士子氏  
(一般社団法人 権利擁護あおい森ねっと 代表理事)



制度として知っているだけで、具体的な内容は分かりませんでした。具体例などをおりませでの説明や現状がとても分かりやすく理解度が向上しました。実際に後見人の仕事をされている方の話を伺う機会がありませんので、すごく参考になり、まだまだ知られていない成年後見人制度が一般的になればいいと感じました。

(記：庶務係 松川美晴)

### 看護の日・看護週間イベント

平成30年5月12日(土)、イオンモールつがる柏店で実施しました。

集合時間前にはスタッフ全員が揃い、手際よく準備、予定通りの時間で開始ができチームワークの良さを感じました。

内容は、子供白衣体験(写真撮影)、健康チェック(血圧測定)と健康相談、訪問看護相談、キャンペーングッズ配布を行いました。

「子供白衣体験コーナー」ではお子様が好きな白衣に着替え、可愛くポーズを決め写真撮影、印刷した写真をおうちの方と見て大変喜ぶ光景がみ



今日1日 頑張ります!!



西北五支部 役員・協力員

れました。

「血圧測定と健康相談コーナー」では、将来看護師になりたい小学生が、お母さんの血圧測定を行いました。この体験が職業観醸成につながることを期待し、みんなで夢実現に向けてエールをおきました。

大人と子供が一緒に参加していただくことで、メインテーマである「看護の心をみんなの心に」が広くPRされていくのかなと感じました。

(記：第一支部長 伏見睦世)

## 下北支部だより

### 平成30年度 下北支部集会

平成30年5月26日(土)公済会館において、平成30年度の下北支部集会が行われました。下北支部会員数403名中、参加者は50名、委任状は258名の提出をいただき、副支部長の集会成立宣言が行われ支部集会開催となりました。議長選出後、事業経過報告として、庶務・研修・広報・推薦の各係からと、社会参加報告、事業別経費支出の報告、事業計画、経費割当ての報告を行い質疑応答となりました。また、平成30年度の新役員も選出となりました。新任役員を含む19名で下北支部一丸となり今年1年頑張ってもらいますのでよろしくお願い致します。  
(記：幹事(広報) 高橋善弘)



### 平成30年度 第1回研修会

平成30年5月26日(土)第1回研修会が公済会館にて行われました。第1回の研修会は物忘れフォーラムと題し認知症を学ぶため、十和田市立中央病院の竹内淳子先生が座長を務めるじゅんちゃん一座の皆様をお迎えしての開催となりました。また、今回の研修会は初の試みとして、下北地域の高校生の皆さんにも参加を働きかけ、将来医療従事者を目指す24名の高校生の皆さんに参加していただきました。



参加頂いた高校生の皆様



竹内先生とじゅんちゃん一座の皆様

認知症はこれからも増えていく疾患ではあると思いますが、じゅんちゃん一座の寸劇は笑って楽しく認知症について学べ、私たち看護スタッフはもちろん、高校生の皆さんにも素晴らしい貴重な時間になりました。このような研修会を通して、認知症への偏見をなくし理解を深めていきたいと思います。また、参加してくれた高校生の皆さんが、将来素敵な医療従事者となりますよう応援しています。

(記：幹事(広報) 高橋善弘)

### 平成30年度 看護の日イベント

平成30年5月12日(土)、毎年恒例となりました看護の日のイベントが、今年もマエダ百貨店1階催事場にて行われました。今年は昨年の4階から会場を移しての開催となり、血圧測定、健康相談のほか、むつ総合病院DMケアチームの応援をいただいでの血糖値測定、訪問看護ステーションやまびこスタッフの応援をいただいで訪問看護についての相談を行いました。

た。当日のスタッフ総出で旗やパンフレット、お子様用の風船を持ち看護協会をアピールすべく、来店されたお客様やお買い物の終わりのお客様、小さなお子様を連れていらっしゃるお客様に積極的に声をかけ、86名の方に参加いただきました。お子様のナース服体験も行いましたが、こちらは3名と残念な結果となってしまいました。



お客様を迎える準備

今年の反省を踏まえまして、看護協会をもっと地域の方々に知っていただけるように努力し、イベントの際には、行列のできる下北支部を目指したいと思います。

(記：幹事(広報) 高橋善弘)

## 上十三支部だより

### 平成30年度 上十三支部集会

平成30年5月26日(土)、上十三支部集会が三沢市国際交流教育センターを会場に、総会員数997名、委任状提出744名、出席者数95名で開催されました。初めに館田支部長の挨拶があり、その後平成29年度事業及び収支決算報告、平成30年度事業計画及び事業に要する経費割当について報告がありました。

議案は、承認され、新旧役員の紹介があり閉会となりました。皆様、大変お疲れさまでした。

(記：第一副支部長 米内山裕樹)



支部集会の様子

### 平成30年度 研修会

集会終了後  
研修会開催

心に寄り添って  
ほほえみを引き出すために

講師：青い森のほほえみプロデュース推進協会



講師のみなさん



カードをもらった参加者は、  
ほほえみプロデューサー!!

講師には、副会長の中村そがさん、会員の西澤優美子さんと福田靖一さんを迎え、支部集会終了後に96名の参加を得、開催しました。

講師から「ほほえみ・笑顔」の大切さや相手とのコミュニケーションをとるときのコツとして高柳和江先生の考案である「ほほえみ7か条」を聞いた後、ペアになってお互いを「認める」「ほめる」「素敵などころを引き出す」を実践しました。参加者のアンケートからは、「何気ない会話の中に笑顔がほころんでいた自分に嬉しさを感じました。」「普段いつもイライラして笑顔のない自分を反省する機会となりました。」「職場や家庭で試してみたい。」との感想が寄せられ、大変充実した研修会となりました。

(記：支部長 佐々木操)

### 看護の日PR・キャンペーン in 十和田 平成30年5月12日



今日の血圧はどうでしょう～？

今年度は、好評により1時間延長し、血圧・血管年齢、骨密度測定及び健康相談を実施しました。参加人数は82人。

ハンカチや風船を配布しながら看護の日を呼びかけました。

「毎年このイベントに参加している」と話す方もいっしょり、イベントが地域に根付いていると感じた一場面でした。また熱心に健康相談を受ける方もいて、私たちが



その声に応えるため来年も頑張ろうとみんなで声をかけあいました。  
(記：第一副支部長 米内山裕樹)

## 見舞金の 受付

平成30年北海道胆振東部地震により被災された皆様に、心からお見舞いを申し上げます。  
青森県看護協会では、平成30年北海道胆振東部地震の被災支援のため北海道看護協会へ  
の見舞金を平成30年10月31日まで受付しております。振込先につきましては、青森県看護  
協会ホームページをご参照ください。

会員の皆様の温かいご協力をお願いします。

## 義援金の お礼

平成30年7月豪雨災害の被災者を支援するため募集しておりました義援金について、多数  
の会員の皆様からご協力いただき、誠にありがとうございました。青森県看護協会では寄せ  
られた義援金を被災された府県にどのように配分するかを検討いたします。決定いたしまし  
たら、皆様に改めて報告いたします。なお、平成30年7月豪雨災害の義援金につきましては、  
平成30年9月30日をもって終了させていただきます。

義援金総額：627,671円（平成30年9月26日現在）



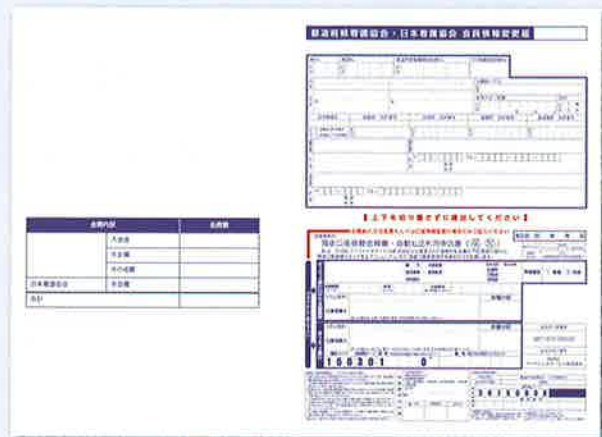
青森県看護協会では、県内外での大規模災害発生時に日本看護協  
会とのネットワークや青森県等関係機関との連携・協力して派遣す  
る災害支援ナースの登録をお願いしております。また、当協会では  
災害発生に関する情報を随時、ホームページに掲載しております。



## 「2019年度 会員継続のお知らせ」 について

日本看護協会から「2019年度 会員継続のお知らせ」  
が2018年11月上旬から順次発送されます。お手元に  
届きましたら記載内容をご確認のうえ、変更がある場合  
のみ「会員情報変更届」(右側半分)をご提出ください。

※2018年9月19日時点でのナースシップ登録先の勤務先または  
自宅住所へ郵送されます。既に退職された方へ届いた場合や、  
住所変更により郵便物が届かない場合は、お手数ですが青森県  
看護協会 総務課(017-723-2857)までご連絡ください。



## 広報出版委員会より

「看護 青い森」の感想について下記のアドレスまで是非  
お寄せください。掲載される場合もありますので、お  
名前またはペンネームをお忘れなく。

E-mail : [ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp](mailto:ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp)

「件名：看護 青い森 読者の声」でお願いします

## 編集後記

平成30年度新しい一歩の101号が発行されました。  
新メンバーも加わり、新鮮な気持ちで取り組んでいます。  
今後も皆様のご協力のもと200号を目指して邁進してい  
きたいと思っております。



新しい安心のカタチ  
殺菌成分：次亜塩素酸水  
**ケア・フォー**  
ノロリアプラス

クロラス酸が汚れに負けない除菌力を発揮  
SANKEI ケア・フォー **ノロリアプラス**  
食品用漂白剤、漂白剤、漂白剤

強力除菌 消臭効果 低腐食性 低刺激性

お問い合わせ先 **EIKEN** A-HACCP 認証取得  
株式会社 **栄研**  
本社 青森県弘前市大字藤野1丁目4番地1  
品質保証室 TEL 0172-31-2567  
製造：本部三慶株式会社

信頼の技術を、信頼の医療機器・医薬品  
医薬品へ。

**NIPRO**  
www.nipro.co.jp